

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア現場において、入居者の対応に悩むときや解決困難な事例にぶつかったときは、理念や方針に立ち返って考えられるようケアカンファレンスや実践の中でスタッフ相互に確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買物や理美容等、地域の資源を活用している。また、管轄消防署と協力し、災害発生時に備え避難訓練等を近隣施設とも協働して実施、更には「子ども110番の家」に登録され、地域の一員として交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の近くに位置し、多くの子供達の通学路となっている当事業所の地域貢献として「子ども110番の家」に登録している他、管轄消防署の課題でもある福祉施設における災害時避難について協働し、認知症の人の理解や支援方法について理解を深めることを継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	写真等を用い活動状況を報告、また、ホームの献立から実際に食事を提供、試食してもらう等、ご家族との意見交換を行っている。不参加の家族に対しては会議前後来所された際に個別の話をもち、要望や意見を汲取る努力をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアマネジャーを中心に、行政担当者や地域包括支援センターと連絡調整を行い、協力体制を築いている。また、家族からの要望や相談事について、市担当者と協議している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含め、身体拘束は一切行っていない。入居者が外に行きたい気持ちの時には職員も一緒に外へ出て、入居者の気分転換を図る努力をしている他ホーム敷地内いつでも出れる庭を作るなど建物に工夫をしている。また、入居者本人の求めていることに対して、すぐに対応できない時には納得していただけるよう理由を説明している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修や認知症介護実践者研修にて知識を習得し、実践の中でも「拘束しないケア」についてスタッフ間で話し合い、確認作業を行っている。また、母体施設にて毎月開催の委員会への参加を調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症介護実践者研修等の外部研修へ参加し知識を習得する他、地域の在宅介護支援センターや地域包括支援センタースタッフとコネクションを持ち、不足している知識を補っている。必要性が生じた時に周りの協力を仰ぎながら制度を活用する努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時に、留意事項や利用料金等、契約時に詳しい契約内容の確認、重要事項についての説明を行い、その都度不明な点や疑問点を確認しながら、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の企画など、入居者との普段の関わりの中で意見を引き出し運営に活かす努力をしている他、家族とは面会時にコミュニケーションを図り、いつでも気兼ねなく話せるような雰囲気作りを行っており、信頼関係が構築できたことを実感している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週両ユニット合同のミーティングを行い、職員が業務上の事で意見できる場を作り、より良い運営・職場環境を目指している。また、法人全体の会議において、事業所の状況を報告・連絡・相談している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ就労状況や健康状態等を、リーダーから報告を受け、状況に合わせて本人と直接やり取りをし、就労に関する希望等を勤務状況へ反映するようになっている。また、業務の効率化や職務に誇りを持って臨むことができるような体制を構築している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤、非常勤問わず、スタッフに経験年数やケアの実践状況に合わせ、研修等へ積極的に参加してもらっている。また、常勤職員に関しては、認知症に関する専門的な研修への参加を義務付けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが、近隣GHとの交流や関係事業所との交流、他認知症ケア現場との交流を通して情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人やその家族に対し、要望等を確認することは勿論、日常の活動を通し本人の好きな事、得意な事に取り組んでいただきながらコミュニケーションを深め、安心できる居場所作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱える入居に対する後ろめたさや不安感を軽減できるよう十分に話しを聞き、生活の中で入居者本人の笑顔の表出があったエピソード等をお伝えし、安心していただけるよう関係づくりに努めている。また、入居後の「家族の役割」についても一緒に考え、負担のない範囲で役割分担している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの情報と、現在の入居者の状態像を生活の中でアセスメントし、ケアプランに反映させている。また、当方で提供するケアだけでなく、医療機関との連携や地域資源等を活用し、入居者と家族の要望に応えられるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が生活の主体であることを第一に考え、心身状態に応じ、本人にお任せする時もあれば、お手伝いすることもあり、自尊心を高く保てるようケアすることに努めている。一方で職員から相談話を持ちかけたり料理を始め文化を教わる機会も多くあり、入居者からは「お互い様」と言っていたいっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族との関係を第一に考え、家族が負担に感じる部分はスタッフが代行するなど、役割分担をしている。また、旅行や行事等、家族が参加できる機会を作り、関係を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後の家族の役割について検討し、積極的に面会や外出の機会を設けている。地域の行事に参加することや、家族と過ごす時間をつくる等、馴染みの人や思い出の場所・習慣を大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じ、職員が直接的に介入しているが、入居者が主体となり、入居者同士の間人関係を深め、お互いを認め合える関係づくりができるよう配慮、工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、顔馴染みの入居者とお見舞いに行くなど、本人との関係を保ち続ける一方で、家族の不安が解消されるよう相談に乗り、必要に応じて関係機関との連絡調整を行っている。また、退居家族宛てに行事の案内や季刊誌の送付を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時、本人及び家族より意向を伺う他、日常の中で言語・非言語的コミュニケーションを含めて情報を集め、本人の思いや希望をケアプランに反映させている。それに関係する研修等にも参加し、本人主体のケアができるようスキルアップを図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族から得た生活歴等の情報を参考に、生活の中で入居者本人が語られた生活習慣やエピソードを記録し、職員全体で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する状態を見逃さぬよう、職員全体(主治医・看護師も含め)で情報交換し、客観的な現状の把握に努めている。更に居室担当者を設け、よりきめの細かい気付きとケアの提供ができるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人の希望や心身の状態、家族の要望等を合わせ、職員全体(主治医・看護師も含め)でケアプランの内容を検討している。更に1カ月ごとに評価を行い、ケアプランの見直しを実施するほか、必要性が生じれば、その都度サービスの追加や修正をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、提供したサービス内容と結果などを個別に記録する他、実践状況を確認するカンファレンスを設け、記録内容をケアプランの見直しに活かしている。カンファレンスの内容を職員全体に周知できるようにすることに課題があり検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の機能にとらわれすぎることのないよう対応することに努めている。例えば、外出支援や家族との時間を過ごせるような行事、一泊旅行等を企画する他、買い物に出かけた際、個人の好きなものを購入したり、その日の入居者の要望により、喫茶へ出かけたりにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の個人商店やスーパーマーケットを利用し、顔馴染みになるよう努める他、マッサージや協力医療機関と協働し、健康管理に留意、入居者がその人らしく生活できるよう支援している。また、災害時の避難に協力してもらえるよう日頃から訓練等に近隣資源にも参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、姉妹法人の協力医療機関との連携について説明、同意を得て入居に至っている。また、往診のみならず、些細な体調の変化や緊急時等、柔軟に対応してもらえるような連携体制となっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、日常の健康管理は勿論、些細な事や、職員が疑問・不安に感じる事等にも耳を傾けてくれる 良き相談者であり、入居者と家族にとっても同様の存在となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者が安心して治療を受けられるように医療関係者に情報提供をしている。また、退院に向けての医療機関とのカンファレンスを行い、スムーズにホームでの生活に戻れるようお互いのスタッフ同士で相談し連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の様子に変化が見られた場合は、家族の要望を踏まえ医師・看護師・スタッフと相談をするように働きかけている。基本的に看取りは行っていないので、本人に合わせたケアや生活環境をスムーズに提供できるよう、ご家族、関係職種とのカンファレンスを必要に応じ行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム担当の看護師より指導を受けたり、マニュアルを活用し対応方法を学んでいるが、全スタッフが実践力を身に付けているとは言えないので、訓練等を継続して行う必要がある。また、急変時に対して、24時間365日オンコール体制で、冷静に対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を、近隣住民、近隣関係機関、消防署とに協力により行い、訓練後は家族を交えたディスカッションを通して、災害時の意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの好きな事・得意な事に携わっていただき、自尊心を高める関わりをしている。また、居室で過ごせる等個人の時間も大切にす他、本人の心配ごとに対してプライバシーが保護されるように、ハード面とソフト面の両面から対応できるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	マンツーマンにて本人の心の内を表出できるような環境を作り、引き出す機会を大切にし、日常生活のあらゆる場面で自己選択と自己決定ができるよう、個々別々のペースに合わせて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	在宅での生活習慣や、入居前の生活リズム等、事前に本人や家族から得られた情報を基に、ホームでのその人の現状を把握し、一人ひとりの生活を支援している。例えば、起床、就寝の時間、食事の時間等は本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容していただく他、習慣のある方にはお化粧などの声掛けもしている。また、定期的に地域の理美容室に通い、希望のヘアスタイルを維持されており、必要性があれば地域の衣料品店へも出かけ、ご自分で選び購入していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けの協力をしてもらい、一緒に畑で収穫した野菜等を使い、季節ごとの料理を提供している。また、身体機能や好みに応じ、本人と相談しながら献立や食形態に留意している。また、ホームから提供される食事だけではなく、外食や出前、訪問販売なども取り入れ、食事の楽しみを演出している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者本人や家族から情報をもとに嗜好を大切にしながら食事が進むよう支援している。また、食事量や水分摂取量等を毎日記録し、主治医、看護師と連携の上、栄養バランスに留意している。必要に応じ、管理栄養士にも相談することが可能であり、助言や新しい情報をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔内の状態と身体能力に合わせた口腔ケアに取り組み、必要に応じて歯科受診をする等の対応をしている。また、定期的に歯科衛生士が往診し入居者の状況を把握、介護職と情報を共有してケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態や行動パターン等を把握し排泄のサインを見逃さずプライバシーに配慮した声掛け誘導し介助の見極めをしその方にとって適切な排泄方法を見つけ支援している。状態に変化があった時には本人にあった排泄方法を相談し支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師と連携し、排便コントロールを実施しているが、薬に頼り過ぎることのないよう、日常生活の中での運動する機会や入浴、水分量の確保、乳製品を活用する等の食事の工夫を通して、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居前の生活習慣に合わせた時間や頻度で入浴をしていただいている他、お風呂を楽しんでいただけるようにお湯の温度への配慮や入浴剤を使用するなどし、個々が心地よく入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に異なる活動と休息のバランスに配慮し、心身の疲労が見られる時にはすぐに休むことができるよう環境を整えている。また、バイオリズムが崩れないよう、日光を浴びるなどの機会も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の処方一覧を設けており、職員が服薬内容をいつでも確認できるようになっている。また、入居者に変化があった場合には、主治医と看護師に相談し、服薬内容を検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が自ら進んで行ってくれたことに対し職員は感謝の意を表出し、誇りを持って役割を担ってもらえるよう努めている。また、入居者同士で協力し合える環境作りをし、入居者が互いに必要とされている実感がもてるような働きかけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の中でのゴミ出しや買い物などを活用し、目的を持って外出する他に、近隣への散歩や喫茶などの余暇の機会を提供している。また、初詣などの文化を大切にする行事や、誕生日の外食、更には家族との水入らず旅行なども企画し、実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭管理能力と家族との相談の上、本人保管と事業所保管とにケースが分かれるが、買い物時の支払は、可能な範囲で本人に行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は入居者が希望した時に自由に利用でき、必要に応じて職員がお手伝いを行っている。手紙の支援については本人の希望でいつでもやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって不快や混乱を招く刺激のないよう環境を整備し、生活のにおいや季節を感じられる雰囲気作りに努め、また、本人の能力が最大限に発揮できるよう、蛇口や台所などハード面の工夫もしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に小スペースに分けた空間(仕切れる畳部屋)を設け、居場所を選択できるようにしている。また、より過ごしやすいように環境を整えることを検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族に相談し、使い慣れた物や好みの物を持ち込んでいただき、本人が居心地良く過ごせるよう配慮している。また、冬季の乾燥する時期には加湿器を用意してもらうなど、心身共に心地よい空間になるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が、理解しやすく、使いやすい物に配慮、整備し入居者の能力が最大限に発揮できるよう、室内環境、物等を工夫している。		